

健康寿命と平均寿命について

齊藤 貢一 議員

質問 市長の政策目標「ともにつくろう、先端のまち館林」の中で、健康寿命を延ばし、生涯現役のまちを目指すと、群馬県の男女の健康寿命と全国の順位を挙げられていますが、この数値の整合性と本市の現状と課題について伺います。

答 健康寿命については、「元気年齢」を算出しました。国が国民生活基礎調査をもとに、都道府県単位で公表していますが、市町村ではサンプル数が少ないため、算出できません。数値は正しいものですが、統一された統計がないことから混乱を招いております。本市においては、健康寿命である「元気年齢」を算出しまし

たが、平均余命との差、つまり健康でない期間が短縮されていないという課題があることがわかりました。

質問 市長に伺いますが、健康寿命については、いろいろな考えと指標があり、何を根拠に政策をとるのかによって変わると思いますが、平均寿命をみると、群馬県は全国で男性が29位、女性が41位となり、さらに本市は県内でも低く、男性は78・9歳と35市町村中28番目、女性は85・4歳で30位となり、今後、更なる環境整備を図ってまいります。

ついでに、低い所にあつて立てる政策と高い所にあつての政策はおのずと違つてくると思いますが、現状をどう考えていますか。

答 65歳からの平均余命、元気年齢とともに群馬県内19市郡の中では最下位となつております。トップクラスの市を目指すというのは、末永い目標になるかと思いますが、力強い施策展開が必要だと考えております。

質問 本市は、65歳における健康寿命と65歳以上の人

が生きられる期間の平均余命との差を数値目標として出していますが、逆に0歳からの平均寿命の低さを問題にすべきで、医療とか健康診断とかの課題を明確にすべきと考えますが。

答 健康寿命の指標や評価については研究途上のもので、本市における評価は、要介護にならない人を増やしていくという観点でなされるべきと思います。今後は、産官学プラットフォームの中でも検討していきます。

マイナンバーと防災Wi-Fi

向井 誠 議員

マイナンバーカードの普及
質問 前橋市の交通弱者の支援や総務省の民間企業が発行するポイントとの連携によりマイナンバーカードの活用を促進させる考えは。

答 マイナンバーカードの活用のためには、住民が利便性を感じることが重要であり、国の動きや地方自治体と民間の取組により、カードが普及していくものと思っております。今後普及が進むよう努めてまいります。

質問 カード申請の環境整備についての考えは。

答 現在、マイナポータル用端末を市役所の窓口を設置し、写真撮影から申請まで行える準備を進めてお

り、今後、更なる環境整備を図ってまいります。

質問 大規模な災害時にはWi-Fiが有効とされており、Wi-Fiの有効とされており、Wi-Fiが有効とされており、Wi-Fiを準備する考えは。

また、ランニングコストとして、例えば、公民館11館に2か所ずつ整備した場合には、年間約250万円の経費が見込まれます。

質問 既存の通信会社との連携の考えは。

答 通信事業者と設置可能な台数などの情報交換を行い、研究してまいります。

質問 自立支援についての評価

質問 今後、要介護者数は増えていくと思われるが、介護事業者にとつて質の高い良い介護サービスで要介

護度が改善すればするほど収益が減るといふ現状に対し、報奨金や表彰する考えは。

答 報奨金については、国も平成30年度介護報酬改定の中で検討していることから、金銭面以外の優良事業者の表彰制度について検討したいと思っております。また、表彰を受けた事業者を広報紙等で市民に周知することにより、事業者へのプラス効果やインセンティブになると考えており、今後也十分検討してまいります。